

奄美野生生物保護センター  
ニュースレター

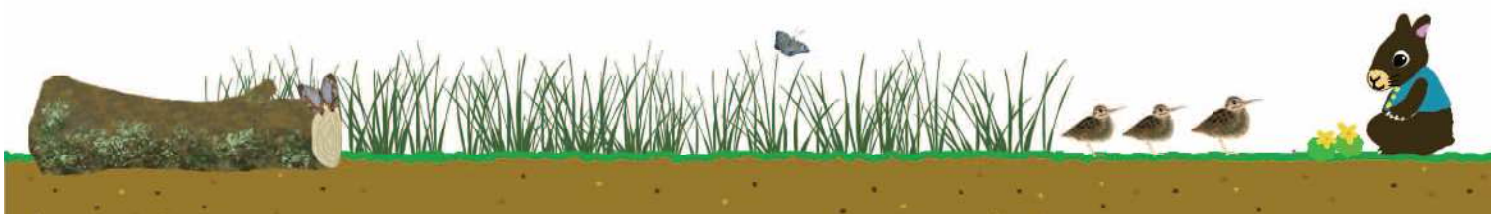
# 奄美の風だより



寒い季節となりました。奄美の冬は風が強いので体感温度がけっこう低いです。白波が立ち荒れる海に、窓のすき間からピューピューと風の音。なるべく外に出たくない・・・こたつで丸くなりたい・・・と心から思います。しかし、人が丸くなっていたいと思っても、植物たちは寒いなんて言ってもらえないわ！とばかりにしゃんと美しい花を咲かせています。上の写真は冬から早春の寒い時期に咲いているものです。白、黄、赤、紫など見る目も鮮やかです。奄美の山、人里、海岸などは、四季を問わず一年中さまざまな花に彩られていますが、寒い時期にも野山に美しい花が咲くというのは、奄美の見所の一つのように、旅行会社の方に「ヒカンザクラだけではなくその時期に咲く花を教えてください。」と聞かれたことがあります。なるほど、地元の人が見落としてしまう奄美の良い所を改めて教えてもらいました。

しかし、美しい花が咲く時期になれば、話題になるのは盗掘の問題です。いつの日か、「盗られた！」という話題ではなく、「地域全体で保全したおかげで美しい花々をいたるところで見られます。」という話題が上るようになってほしいと思います。

(吉田)



# 今の時期に見られる動植物



花 (花期2月~5月)

## ムベ (実)

低地から山地の林縁に生える常緑性のつる性木本。実は暗紫色に熟すがアケビのように裂開しない。美味しい秋の味覚。



## オキナワギク

奄美大島、徳之島、沖縄島の固有種。海岸の岩場に生える多年生草本。葉は丸く厚い。葉と茎には毛が生える。花期は10月から1月。



## オオバン

奄美へは冬鳥として渡ってくる。記録のある島は奄美大島、徳之島、沖永良部島。黒い体色に、白色のくちばしと顔が目立つ。



## ピンズイ

奄美には旅鳥および冬鳥として渡ってくる。記録のある島は、奄美大島、加計呂麻島、与論島など。山地や松林を好んで生息する。

奄美には5種類あるよ〜

### 今季の一枚 「どんぐり」

実りの代表どんぐり。どんぐりは野生動物たちにとって秋冬のエサが少ない時期の重要な食べ物となります。そのため、どんぐりの豊作・不作は生きものたちに大きな影響を与えます。

どんぐりは、鳥類、ほ乳類が主に食べます。奄美には固有種を含め多種多様な生きものたちが生息していますが、その生きものを支えている重要な存在であり、奄美の多様性を生み出しているといっても過言ではないでしょう。

また、どんぐりが不作の年は、イノシシが山のふもとまで下りてきて畑を荒らし、農作物の被害が多くなるなど、私たちの生活にも影響を与えます。



# 奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は

## 天城町

です



天城町全景

天城町は徳之島の北西部、徳之島のほぼ西半分を占めます。トライアスロンも有名で鉄人たちの島とも言われスポーツに最適な環境です。

### 天城町の木



### 【ソテツ】

「生ける化石」と呼ばれている植物。またその実、幹からはデンプンがとれ、色々な食品に加工され、戦時中は島民の食料源として重宝されました。



おすすめ

## 観光名所「ウンブキ/ムシロ瀬/犬の門蓋」いんのじょうふた



ウンブキ

### 【ウンブキ】

この鍾乳洞は方言でウンブキと呼ばれ、かつてサンゴ礁が地上に隆起して鍾乳洞ができ、再び海に没した海底洞窟です。およそ400m先で海につながり、干満の影響で水位が変化します。海水と地下水が混じり合うアンキアライン洞窟で、発見例が少なく和名もついていない魚やエビが生息しています。さまざまな植物が同居しており、森を好む野鳥、アカヒゲも生息しています。(空港から3分)



ムシロ瀬

### 【ムシロ瀬】

南国には珍しい花崗岩の海岸線はあたかもムシロを敷き詰めたような巨岩が連なっており壮大な景観。北風が吹きつけるので、冬場は特に豪快なしぶきが上がり普段とはまた違った姿を見ることができます。また、外海に面しているため釣り好きにとっては回遊魚の釣り場としても定着しています。海岸付近には大島紬の染料に使う「車輪梅(シャリンバイ)」が群生しています。

(空港から15分)

### 【犬の門蓋】

季節風や荒波によって浸食された断崖・奇岩がそびえ立つ。メガネのようにくりぬかれたメガネ岩もそのひとつ。一帯は東シナ海に面し、大海原に水平線が広がり、夕日の眺めは訪れる人を魅了します。(空港から15分)

(天城町 商工水産観光課)



犬の門蓋

# いきものいる風景 ~ヘビについて~

奄美には9種のヘビが生息していますが、ハブのように人に危害を加えるものもいるため、人にとっ  
ては恐ろしい存在であり、また見た目などからあまり好かれる生きものではないかもしれません。し  
かし、ハブは生態系の頂点という重要な位置にいますし、他のヘビも生態系の中ですら重要な役割  
をはたしています。今回はヘビにスポットをあて、興味をもつきっかけになればと思います。

## 奄美にいたるヘビの種類



**ハブ**  
奄美群島・喜界島・沖永良部島・与論島などを除く）と沖縄諸島（伊是名島・粟国島などを除く）に生息している毒ヘビです。体色はさまざまで、「金  
ハブ・銀ハブ・黒ハブ」など個体差があります。山地から樹上まで幅広い環境に住んでいます。昼と夜の間に熱を感知す  
る「ピット器官」があり、この感覚器を使い獲物を捕らえます。体はスマートで細長く頭部は長三角形で大きく目立ち、全長は最大で240cmを  
超えます。

**ヒヤン・ハイ**（環境省第4次レッドリスト準絶滅危惧種）  
ヒヤンはオレンジ色に黒い縦帯が入る鮮やかなヘビで、奄美大島と加計呂麻島・与路島・諸島に生息しています。霧之島には別亜種のハイが生息  
しています。オレンジ色に黒い縦帯が入ったヘビで、コブラ科に属し、毒はハブより強弱ですが、性質が溫和で口が小さく人体に牙を刺さないため、  
被害報告はないようです。全長は、30～60cm、夜行性で常緑広葉樹林などの湿潤な環境に住んでいます。尾の先に硬い部分があり、つかむと刺  
してきますが、毒はありません。

**リュウキュウアオハビ**  
トカラ列島の宝島・小宝島と奄美・沖繩の島々に広く生息しています。奄美大島では「アオオオショウ」と呼ばれることもあり、山地から平地、  
民家付近まで広く見かけますが、基本的には主食となるミミズの生息する湿度の高い森林に住んでいます。体色は個体による変異が大きく、背面  
は緑色や茶色で、腹面は白色や鮮やかな黄色です。無毒で全長は、70～80cmになります。

**アカマタ**  
奄美群島・沖縄諸島に生息しています。奄美大島では「マツツブ」と呼ばれ、人家付近から山奥まで幅広い環境に住んでいます。性質は荒く近づくくと鎌  
首を持ち上げて、威嚇姿勢を取ります。体色は赤褐色の地に黒縦線が入り、一見すると毒ヘビのイメージですが無毒です。日本のマダラハブ  
属中最大で全長80～170cmになり、魚からカエル、ネズミまでと食性は幅広く、まれに樹皮直後のワミガシも食べることがあります。

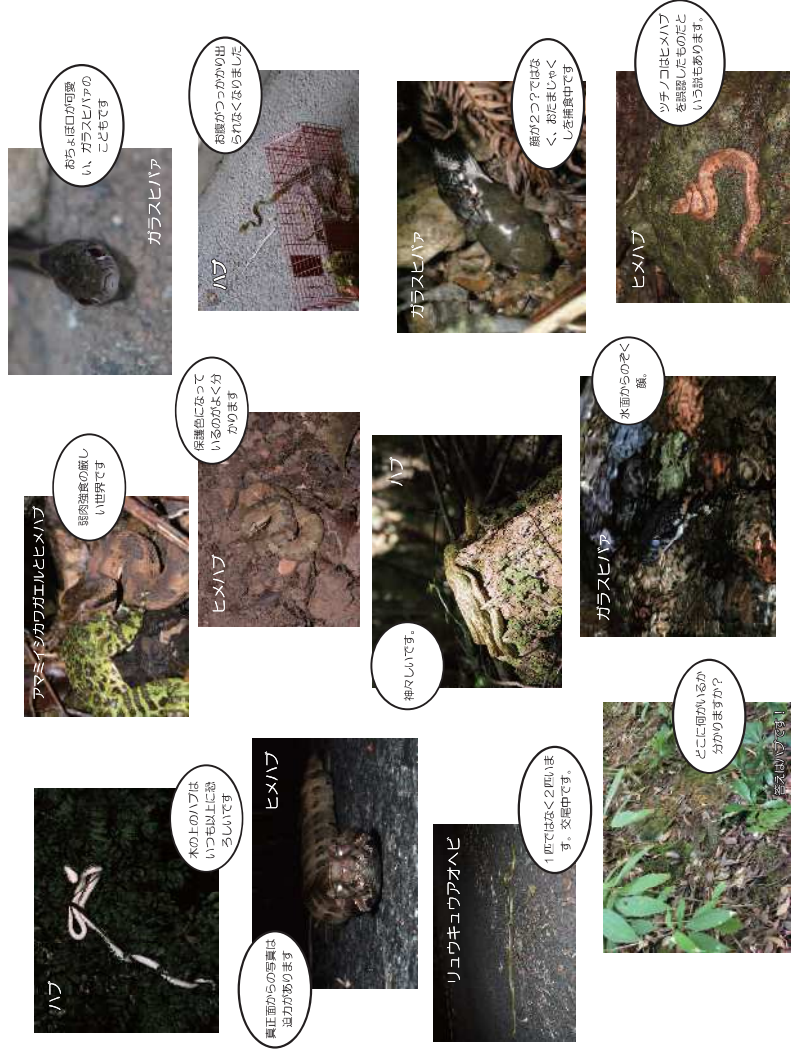
**ヒメハブ**  
奄美群島（喜界島・沖永良部島・与論島などを除く）と沖縄諸島（粟国島などを除く）に生息しています。奄美大島では「マムシ」と呼ばれることがあり、  
ハブと同じく夜行性です。通った環境を好み、山地から民家付近、森林の氷沢や水田などに住んでいます。ハブよりも毒は弱く、性質もおどろしい上に  
動きも鈍く、主にカエルを捕食しています。体色は褐色で暗色の斑紋が帯状に入り、全長は30～80cmで、太く短いのが特徴です。

**ガラスヒバア**  
奄美群島と沖縄諸島に生息している毒ヘビです。全長75～110cm、川や湿地などでよく見かけます。動きは素早く、主にカエルやオタマジャクシを  
食べますが、時にはトカゲ類も食べることがあります。

**アマミタカチホハビ**（環境省第4次レッドリスト準絶滅危惧種）  
奄美大島、霧之島、桜茅久島、沖縄島、波島嶼島に生息しています。全長20～55cm、通った森林や山地などの樹木や岩の下に潜んでいます。夜間に  
活動することが多く、主にミミズを食べています。

**フラミニメクラハビ**  
原産地はくわかっていない外来種で、日本でもトカラ列島の南西諸島などに侵入、定着しています。全長16～22cm、樹木の下などに住んでい  
ます。ミミズのような外見ですが、体表はうろこでおおわれています。ヘビ類の中では唯一、すべての個体が吐くという珍しい特徴です。

## ヘビが見せるさまざまな姿をとらえました。



おらんぼうが回動  
い、ガラスヒバアの  
ことでも  
ガラスヒバア

お腹がつっかかり出  
られなくまりました  
ハブ

ガラスヒバア  
腹が2つではな  
く、おたまじやく  
しを捕食中です

ヒメハブ  
ツチノコはヒメハブ  
を誤認したものと  
いう話もあります。

アミノイシカワガエルとヒメハブ  
絶食強食の驚し  
い世界です

ヒメハブ  
褐色に染って  
いるのがよく分  
かります

ハブ  
神々しいです。

ガラスヒバア  
水田からのぞく  
風。

ハブ  
真正面からの写真は  
逆光が強いので  
少し暗いです

ヒメハブ  
1冊ではおおよそ2匹いま  
す。交換中です。

リュウキュウアオハビ

どこに何がいるか  
分かりますか？  
奄美の大自然！



報告

## アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン

とき：平成 25 年 10 月 1 日～10 月 31 日

特別イベント

とき：平成 25 年 10 月 12 日、26 日、27 日

アマミノクロウサギの交通事故を防止するため、アマミノクロウサギの着ぐるみ「あまくろ」と一緒に、チラシ等の配布を奄美大島と徳之島で行いました。配布には、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会や徳之島虹の会など、多くの方々にご協力いただきました。



## 野生の鳥とどうつきあうか

～鳥がケガをする要因とその救護について～

とき：平成 25 年 11 月 10 日（日）

場所：奄美博物館

講師：伊藤圭子獣医師（奄美動物病院）

水田拓自然保護専門員

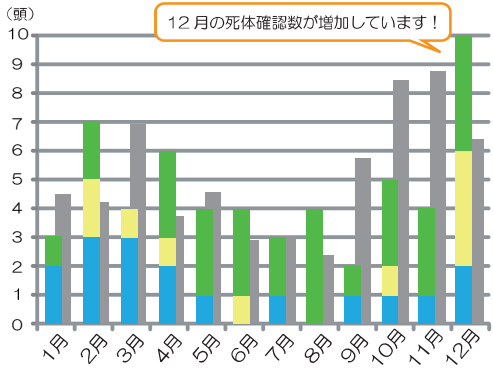
（奄美野生生物保護センター）

参加人数：20 名程度



## アマミノクロウサギ死体確認数

(2013年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



■ 死因不明・その他 ■ ノイヌ・ノネコ  
■ 交通事故 ■ 2007~12年の平均

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



## 奄美に住む動物たちのために、あなたができること

### 安全運転

特に夜間の林道では20km/h以下で走行しましょう。

### 犬・ねこの適正飼育

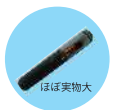
野生化した犬・ねこは、アマミノクロウサギをはじめとした「奄美の森の宝」を食べてしまうこともあります。

#### 🚫 捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう。

#### 🚫 マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



#### 🚫 不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることにあります。

### 🐰 ねこに関するお知らせ 🐱

奄美野生生物保護センターでは、アマミノクロウサギなどの奄美の生きものを守るために、山で野生化してしまったノネコを捕獲する活動を行っています。また、捕獲したノネコたちを人に慣らし、新たな飼い主を見つける里親さがしにも取り組んでいます。現在センターには9匹のねこがおり、里親と一時ボランティアを募集しています。一時ボランティアは、1カ月程度から任意の期間で飼い主の都合に応じて面倒を見ていただく制度です。興味のある方は、是非センターまでお電話下さい。

## いきものおもしろ写真館



### ゾウムシ

長い鼻のようなものは口です。長く伸びた口を鼻にみたく「ゾウムシ」となったそうです。個人的な感想ですが名前もフォルムも可愛らしくてとても好きです。初めて見たとき「こんな生きものがいたのか!!」と衝撃をうけました。

## 編集後記



今年もどんぐりは不作のようですが去年よりはましなような気がします。数少ないどんぐりをルリカケスはせっせと食べていました。警戒心の強い鳥ですが、このときばかりはどんぐりに夢中でじっくり観察することが出来ました。